



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

97.9.5 No. 4654

原則貫く闘う方針の確立に向け

第25回定期大会に集まろう

全ての組合員の皆さん！九月二八日・二九日の両日、鴨川市「鴨川館」で行われる、第二五回動労千葉定期大会に全力で結集することを訴えます。

画期的な勝利 一一八名全組合員の 解雇撤回

今年の第二五回定期大会は、この一年間の闘いを総括することとはもちろんのこと、分割・民営化から一〇年間を経て改めて「JR体制」との攻防戦に決着を求める、反転攻勢の方針を決定する重要な大会となります。

この一年は動労千葉にとっても、分割・民営化反対の第一波・第二波ストでの公労法解雇二八名全員の解雇撤回をかちとるという画期的な一年でした。

この勝利は、一〇年に及ぶ筆舌に尽くしがたい攻撃に対して、も動労千葉七〇〇名組合員と家族が団結を崩さずに闘いぬくことではじめて実現したのであります。そして、この解雇撤回の勝利は、なによりも動労千葉の路線の正しさを改めて実証しました。

分割・民営化攻撃と真正面から切り結び、職場からの怒りと力を結集して闘いぬく方針を堅持し、JR総連革マルとの組織を挙げた対決ぬきに勝利はありえないことを訴え、「全国にはばたこう」路線を確立して闘いぬいてきました。動労千葉のこうした原則的な闘いの路線こそ、国鉄闘争勝利の力ギであることがこの一年間でますます鮮明になったのです。

三つの大きな 節目での大会

さらに、第二五回定期大会は、次の三つの節目の中で開かれる決定的に重要な大会です。

第一の節目は、「新ガイドライン情勢」という、時代の極めて大きな転換点となる節目で大会が開かれるということです。

新ガイドラインは、日本が実際に朝鮮侵略戦争を行うための戦争マニュアルです。これをもとにして日本は朝鮮侵略戦争に自衛隊を出動させ、一方で、労働者を戦時動員しようとしています。労働運動はもちろんのこと、社会と労働者・市民の生活全てが戦争政策にのみ込まれようとしているのです。戦争が迫るときには、労働者の権利はもちろん労働運動そのものが弾圧され、戦争に動員されるのです。戦争に反対ことは、労働組合にとってもっとも重要な課題だということです。

国鉄闘争の牽引車に

第二の節目は、国鉄闘争をめぐる攻防戦がまさに正念場を迎える中で、国労が「八・三〇申入れ」路線を大会方針にするという、国鉄闘争にとって岐路の中で定期大会が開かれるということです。

国労の「八・三〇申入れ」路線は、政府・JR・JR総連革マルの重包囲の中に足を踏み入れることを意味しています。結

第二五回定期大会の開催について

とき 九月二十八日(日) 一三時から

二十九日(月) 一二時まで

ところ 鴨川市・「鴨川館」

※全支部から傍聴に結集しよう！！

局、今まで歩んできた誇りある闘いの道を自ら放棄するもので

国鉄闘争は、日本の労働者階級全体の未来をかけた闘いです。今、国鉄闘争にとって一番重要なことは、原点に立ち帰って原則的な闘う路線と方針を掲げ闘いぬくことです。

動労千葉は、この原則を守りぬいて公労法解雇二八名の全員解雇撤回をかちとりました。勝利の展望は、闘いの中にしかないことを実証してきました。まさに、今、動労千葉が国鉄闘争の牽引車にならなければならぬ時なのです。

新たな黄金期を

そして、第三の節目は、動労千葉自身にとっても大きな節目での大会だということです。

動労千葉結成以前から組合の指導部として活躍してきた水野さん(前動労総連合委員長、元動労千葉副委員長)と山口さん

(元動労千葉副委員長)がこの七月で勇退しました。水野さん、山口さんは、動労千葉の中心的存在として動労千葉の分離・独立、八一・三ジェット燃料阻止闘争、分割・民営化反対闘争、そして「JR体制」との闘いの先頭で闘いぬいてきました。

われわれは、水野さん、山口さんに続いて動労千葉の闘いをさらに強化し、動労千葉の新たな黄金期をつくりあげる決意で第二五回定期大会の臨もうではありませぬか。

また、大会においては、水野さん、山口さんの激励会も開催する予定です。

全支部から、全力で第二五回定期大会に結集し、新ガイドライン情勢の下での新たな労働運動の潮流の最先頭で闘いぬく方針を確立しよう！



九七年団結運動会の日程が決定

とき 十一月二日(日)
ところ 千葉市・穴川中央公園